

1. 開成町福祉計画の実施結果の見極めは

高齢者が増加することで多様化するニーズに対応するための施策として進められてきた開成町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第6期）が平成29年度末で計画期間が満了する。

計画では、基本理念として、「健やかにいきいきと、自分らしく暮らせる生涯健康福祉のまちづくり」を掲げている。経済の高度成長や人口の右肩上がり、過去のこととなり、むしろ共生する価値観として、地域住民とのコミュニティを維持、発展させていくことが重視される。現在、直面する超高齢化社会、人口減少の時代において、憲法で定められた「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を礎に、最後まで人として、尊厳のある生活を守ることが望まれる。

また、身体障害者手帳交付者の約7割が65歳以上の高齢者という本町の現状がある。開成町障がい者計画及び開成町第4期障がい者福祉計画も平成29年度末で計画期間が満了する。各計画の運用は、有機的な連携が図られ、各施策が展開されることが望まれる。

高齢者、障がい者に関わる計画が同時に満了し、後継計画が現在策定されている。町が掲げる福祉計画は、町民の生活設計に大きなかわりを持つ極めて重要な施策であるため、実施結果を伺う。

2. 開成駅に急行が停まることで町への経済効果は

小田急線開成駅は昭和60年3月14日に開業し32年が経過している。開業時点では、各駅停車、準急及び一部急行の停車駅であった。

従来、小田急線が通る市町で唯一駅がなかったことで、開業へ向け、行政と町民が小田急へ駅設置を要望する運動が行われた結果、開設に至っている。開業後の駅周辺は今日まで時間をかけ現在の町並みを形成してきた。振り返れば、この駅ができたことにより南部地区が開発され、将来への展望が開いてきたといえる。

一方、平成20年には、新松田駅より西に準急が乗り入れなくなったため準急の停車駅から外れている。来年3月からは、本厚木から小田原までの各駅に停車する急行について、新松田駅より西は各駅停車に種別変更する形態となるため、急行の停車駅から外れる予定である。

このような状況下においても、昨年度の1日平均乗降人員は11,033人と、年々増加傾向である。将来、急行停車駅となれば、停車本数の増加により、町民の利便性の向上や町の将来の発展等が期待されるため、必要性は認識しているが、その経済効果をどのように見込んでいるのかを伺う。